

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和7年2月7日（金）

### 2 確認箇所

- (1) 5／6号機取水路開渠（図1）
- (2) J8・J9タンクエリア（図1）

### 3 確認項目

- (1) 5／6号機取水路開渠内棧橋設置工事の状況
- (2) J8・J9タンクエリアタンク解体工事の状況

### 4 確認結果の概要

#### (1) 5／6号機取水路開渠内棧橋設置工事の状況

多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）は、トリチウム濃度が1,500Bq/L未満となるよう、海水で十分に希釈してから海洋に放出している。

希釈用の海水は、5／6号機取水路開渠（港湾内）から5号機取水路を通じて取水している。取水に伴い港湾外から5／6号機取水路開渠内に砂が流入し、取水に影響を及ぼす恐れがあるため、海底の堆砂状況に応じて浚渫作業が行われている。

今回は、浚渫作業効率化のため、5／6号機取水路開渠内北側に棧橋の設置が計画されていることから、その作業の状況について確認を行った。

（前回確認：令和6年10月23日）

- ・ 棧橋設置工事が進められており、設置された15本の鋼管杭のうち12本の鋼管杭にジャケットが据付けられていた。（写真1）
- ・ 東側（北防波堤側）では捨石マウンド\*が撤去されていた。一方、西側では捨石マウンドが新しく構築されていた。（写真1、2）
- ・ 港湾内に汚濁拡散防止フェンスが設置されていた。（写真3）
- ・ 作業場近くには、油漏れ対策用品（吸着マット、中和剤等）が保管されており、港湾内に重機等から油が漏れた時の対策として用意されていた。（写真4）
- ・ 安全帯や救命胴衣等が整頓された状態で保管されていた。（写真5）
- ・ 現場確認時、油漏れ等の異常は確認されなかった。また、作業員の装備等も適切であった。

※ 捨石マウンド

防波堤や護岸の基礎として多用される捨石で造った台。東京電力では年3回程度浚渫工事を行っており、浚渫工事の都度捨石マウンドを構築し、浚渫工事が終わった後捨石マウンドを撤去し

ている。棧橋を設置することで棧橋上からバックホーを利用して堆積した土砂の浚渫を行うことができ、より効率良く浚渫工事を行えるようになる。

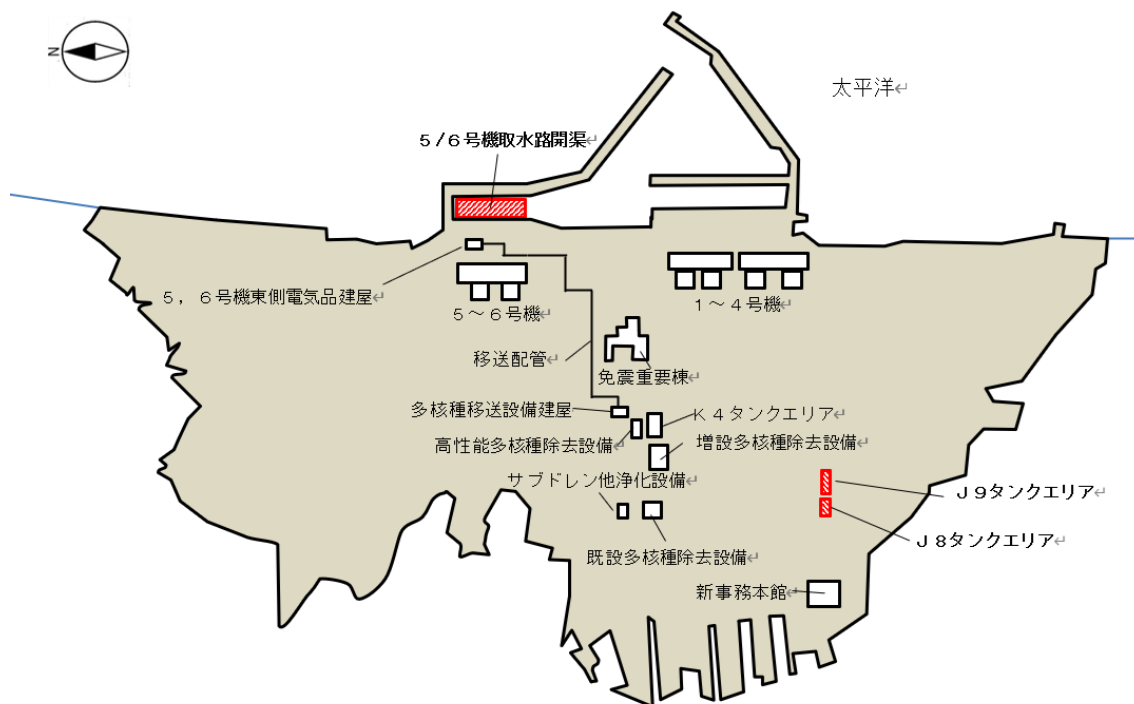
## (2) J8・J9タンクエリアタンク解体工事の状況

J8及びJ9タンクエリア（ALPS処理水を貯留）は、3号機の燃料デブリ取り出し関連施設の建設が予定されている。このため、エリア内に設置された溶接型タンクの解体が令和6年度下期から令和7年度末にかけて計画されている。

東京電力は、溶接型タンクとしては初めての解体作業となることから、手順等を確認しながら他のタンク解体に向け知見を蓄えていきたいとしている。

本日は、J9タンク解体に向けた工事が行われていることからその実施状況について確認した。（前回確認：[令和6年11月22日](#)）

- ・ J9タンクエリア東側において、タンク間に設置している連結管・弁の解体が行われていた。（2月6日時点でJ9タンクエリア東側（3カ所）を除く10カ所の連結管・弁の解体撤去完了済み。）（写真6）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
栈橋の状況①  
(令和7年2月7日撮影)



(写真1-2)  
栈橋の状況②  
(令和6年10月23日撮影)



(写真2-1)  
捨石マウンドの状況①  
(令和7年2月7日撮影)



(写真2-2)  
捨石マウンドの状況②  
(令和6年10月23日撮影)



(写真3)  
汚濁拡散防止フェンスの状況



(写真4)  
油漏れ対策用品の保管状況



(写真5)  
安全帯や救命胴衣等の保管状況



(写真6)  
J9タンクエリア堰内の状況

## 5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。